

### 第3回 栗原市総合計画審議会 会議録

日時：令和7年11月26日（水）  
午後1時30分～午後3時15分  
場所：市役所2階205・206会議室

#### 1 開会

#### 2 挨拶 栗原市総合計画審議会 会長

本日は市民アンケートが議題となる。

宮城大学に熊が出た。最近のニュースで熊が出ることが、様々な影響を与えることが言われており、大学でも学生の安全を第一に考え、休校や集団下校によるバス送迎など、コロナ以来の全学的な対応をした。

最近は、親子熊がうろついているというのが聞こえてこなくなった。大学も通常の授業に戻っているが、卒業研究の時期になり、学生に十二分に配慮して、学内の動線をきちんと作り、不安があれば、熊が来ない場所に退避する、何人かで移動するなど心がけている。

日本中で起きている熊の話題が、振り返れば大学内でも起こっており、十分警戒しているが自然のあり方と大学の共存が重要になってきた。熊だけでなく、自然と住民、産業や経済、自然産物と生業の共生が重要になってくる。

本日の話題も市民皆さんからのレスポンスについて意見をいただきたい。重要なこと、思い当たることがあれば声に出してほしい。市役所でもヒントになると思う。積極的に発言願う。本日もよろしくお願いする。

#### 3 報告事項

##### (1) 第3次栗原市総合計画策定に関する市民アンケート調査結果について

##### ①市民アンケート調査（資料1-1）

（議長）

前回調査と比較すると、薄くマイナスポイントが出ている。

何かしら懸念があるか議論したが、特に関心が低いわけではなく、母数としての回答も来ている。統計的には全体像をとらえる数が集まっている。市民の関心が低い等、直接的な懸念とは考えていないが、向上する働きかけ、合理的な方策があり得るのか考えた。

関心が高いときは問題意識が強く、懸念を感じると関心を持つが、それが無いということは際立って厳しい問題に遭遇していないということと思う。統計学、社会学では限定できないが、思っても表出しな

い場面などあれば発言願う。

(委員)

回収率が良い数値と思う。948 件のうち年代割合の記載があるか。回答数の何割が 10 代など。

(事務局)

資料 1-1 の P.2 に記載している。

(委員)

現在、岩ヶ崎高校の地域コーディネーターをしており総合的な探究活動の授業を受け持っている。今の高校生で地域に関心ある生徒が、授業でも地域に関わる授業が多く、若い世代の数値を見ると、40 歳から 44 歳が回答多いと感じるが、若い人も 19 歳以下と 20 代もしっかり回答している。若い方々に地域の活動を広めていくことが大切と感じている。いつかなんとなく故郷を思い出せるようにしていかなければならないと感じ、自分の地域コーディネーターとしての活動の一環に捉えている。若い方々の回答数が増えるように自分たちも活動をしなればならないと思っている。

(委員)

幼稚園補助員をしているが、子供と地域のつながりが希薄になっており、イベントに地域の方が来ることが少なくなっている。家族構成も 2 世帯が多くなっており、年配の方々と関わる機会がない。小さいころから地域の方に関わることで、地域への興味を引き出す活動をして行けば良いと感じた。

(委員)

資料 1-1 の P.7 と P.8 を拝見しての感想だが、改善分野で将来像 4 及び 5 は地域との交流を聞く問いだが、満足度が高くない。逆に将来像 1 から 3 は重点分野に捉えて、市の施策が的確に市民に伝わっているのを感じている。

第 2 次総合計画の中で同じように満遍なく施策を講じていると思うが、こういうところが結果につながったという分析があれば教えていただきたい。

(事務局)

将来像 1 から 3 については、いろんな状況から重点位置分野の項目が多い。特に将来像 2 については、子育て世代に対する支援策が中心。身近に感じる部分であり、市民にも栗原市が他の自治体より力を入れている事業と認識されている。

担当部署において事業ごとの施策評価をしており、ヒアリングを実施し分析が終わった段階で説明する。

(委員)

子育て分野は栗原市を広報する、注目度が高い。流出しないように子育てを広めて、魅力ある子育て分野を更に重点的にしていただきたい。

また、地域交流で学生がくりこま夜市に参加し盛り上がっていた。しかし、祭り自体は楽しかったが終わってから地元商店街の方との交流を深めると閑散としている。祭りの後と最中でギャップが激しくもっと人を呼び込める起爆剤があるとよい。

(委員)

資料 1-1 の P.17 で 20 から 30 代の職業と職業の場所はどこか。働いている場所が市内と市外では考えが違う。市外なら栗原市は見ない。市内に住んでいる方で、産業がないと不満に思うと考える。

自分も栗原南部商工会に加入して 5 年経つが、お店は劇的に減っている。店をたたんでいる。産業振興は商工会に丸投げで行政が関わっているように見えない。栗原市内の仕事を作るのは厳しい。若者は市外に求める。ここの分析を教えてほしい。

(事務局)

今回の調査の際に、各区分に分けて職業を聞いているが現時点で各年代とのクロス集計をしていないため、今後分析を進めれば年代部分のデータが出てくる状況。

就労先の市内、市外についてはアンケートでは情報として収集していない。

(委員)

資料 1-1 の P.7~8 及び P.17 に関して、人口減少が急激に起きている。産業が停滞しているため、年寄りが落胆しているのは理解できる。P.7 のピンク色の部分について、地域の活性に直接影響するところが低いのは問題と捉えている。

個人的に思うのは、企業誘致にお金を使っているが、人口減少時代に企業誘致してどうするのか。地域発の中小企業、優秀な店舗もある。中小企業の育成に力を費やして、市民が自信を持てる地域づくりにお金の配分のシフトを変えてほしい。

また、観光は二次交通がなく、外からお客様を呼ぶのは厳しいが、市としてどのように捉え、打開策を検討したほうがよい。

(会長)

地域産業の在り方の立ち位置をどうするか。人を育てて箱の形を整える。箱の形が合わないと若い人たちは自分に合う形の箱に行く。良い悪いではなく、そういう育成環境で生きてきている。

関心を高く持ってもらうためにどう振る舞うか。アンケートの報告は細かい輪郭まで設問の分析はされていないため、現状の話題を情報共有して次にこの設計をどうするかを考えるのはこれから。委員も個別的に認識を持ち地方創生の重要な話題。ぜひ、思ったことを話していただくことで地域に伝わり届いて、気が付いたときには媒体にして議論ができればと思う。

(委員)

医療体制に思うところがあり、個人的な話だが私の母は4年前に亡くなり、その時はお風呂で倒れていた。救急車を呼んだがいっぱいですぐに行けないと言われ5分後に電話したが、築館から向かうと言われた。近くに消防分署があるが築館から来ると言われた。20分程かかり、来たのは消防車だった。消防車に救急隊員を乗せてきた。隊員に見てもらったが、見ても分からないと言われた。脳なのか心臓なのかも分からない。更に救急車が来るまで10分かかった。そこから病院探しに40分。病院が見つからず大崎か一関か選ぶよう言われたが、聞かれても分からない。大崎に行ったが、救急車の中の隊員の措置は何もなかった。血圧も計れず、首をかしげながら焦っている様子。

母は足が寒いと言っていたが、訴えに対し救急隊員は待つように言うだけで血圧測定に集中していた。その他措置をされず大崎市民病院に着いたが、瞳孔が開き手遅れと言われた。救急隊員から家族に説明もなく、医者から時間がかかりすぎたと言われた。

救急隊員の育成、救急車がすぐに出動できる体制が必要と思っている。医療体制を整えてほしい。

(議長)

地域に対する箇所箇所の意思と思うが、まちをどうするかという大義の中で見え隠れしてしまい、見ないことにしてしまうことがある。人を集める看板を掲げているにも関わらず、その声が届いていないのは、地域全体の滅亡の一步。今の話はすぐに具体的な行動ができないが、行政は真摯に耳を傾けて、何ができるかを真剣に考える場所を機構の中に持たなくてはならない。

本日の会議は、詳細を詰める会議ではないが、その声があったことを委員はいろんな場面で発言してもらいたい。切ないかつ悲しい話だったが、大事な話であり、こういった場で発言していただき、ありがたく存じる。委員会としての果実だと思い、生かせるような栗原市にしてほしい。

## ②結婚・出産・子育てに関する意識調査（資料1-2）

(議長)

データを拝見し深刻と思った。結婚したくない、子供を産まないことが問題ではなく、結婚して子供が生まれてという今までの定型パターンが硬直化してきているという印象を受けた。地方でも如実に起きていることを目の当たりにした。ひっくり返すのは難しい。恐らく人口を減らさない施策をすることは、本当に奇跡に近い。

地方自治体は人口減少をどう止めるか。人口減少は子どもが減るだけでなく、経済に関わる関係者が減ること。その関係者が減った中で経済をアップデートすることに設計をシフトしていかなければならない。

(委員)

資料1-2のP.34の栗原市の施策について、災害に強く安全安心なまちが上位にあり、若い世代のアンケート、自分もそれくらいの年代だが、過去2回の地震では1人だったこともあり、なるがままだった。今は家庭を持ち、災害にあったときに守るものができる考えると、同じ年代の方が、災害が起きても安全安心という意見が多いことは安心と思える。

自分は消防団をやっているため、この結果を話題にしてみんなに安心してもらえるような活動をしたいと思った。

また、結婚したくない、考えていない、結婚生活に希望を見いだせない、必要性を感じないというのは気持ちが理解できない。どうしてこういう回答になるのか教えてほしい。

(議長)

恐らく、結婚する条件が肯定的に身の回りで改善されるのが想像できない。自分が生きている中の延長線上で未来がすごく明るいわけではない。

終身雇用の保証もなく、社会をかいくぐっていく際に、結婚という制度が枷になると思っている。自分が快適に生きるための障害。それだと優先順位を高めることをしない。結婚して制度の中に入ることを想像する余地が無い。それがほどけて、話題が入ってくると自然に結婚する。自然に入ってこない頃は理解ができないと思う。

学生も 20 代前半に卒業し、30 代手前になると急に結婚して戻ってくる。恐らくそれが、若い世代では一般的に常態化している。それをブレイクスルーするのは難しい。昔はゼクシィが流行の時は良かったが、結婚ビジネスに触れるまでは、若い人たちは見えていない。学生を見るとそう感じる。

(委員)

資料 1-2 の P.16 の金銭的な余裕がないという理由と資料 1-2 の P.4 の職業のところで、主婦(夫)が 2.1%しかいない。P.10 の年収で 30 歳から 34 歳で 300 万円以上が 50%近くいる。P.15 で理想の結婚年代が 30 代。ある程度お金が入ってこない、ハードルになる。栗原市に産業が無いというのは内情として合っている。早急に仕事に就く場所が無いと意欲も無くなる。結婚している人と、していない人との年収の差のクロス集計が欲しいと思った。

(議長)

話題の中でそういった視点があったことは分析のチャンス。ぜひ実施してほしい。

(委員)

若い世代、子育て世代の方が、身に染みてありがたく子育てしていると感じるが、熊の問題が出てきたときに、地域との関連性を考えると、子供に関わりたい地域の方とうまくコミュニケーションが取りにくい、若い世代の方で結婚したくない人が増えてくるなど背景があり、寂しさを感じている。うまく関わりあえれば、よくなればと感じている。

(委員)

回答を見て思ったのが、理想の子供数、現在の子供数のギャップがす

ごすぎてびっくりしている。周りでも同級生の半分は結婚していない。皆さん結婚したくない。結婚したい人は子どもが欲しい。自分も結婚したくないと思っている。経済的な面で、子供が持てない人もいる。時間に余裕が無いという話も聞く。子どもが欲しい人も、積極的に活動はしていない。「自然に出会えたらいいよね」という程度の感覚になっている。なぜ、このようになっているのか。自分が生活できるところに行った結果と思う。今の生活スタイルを変えたくない、子供が持てないならそれでも良いと言う認識になっているのではないかと感じている。

### ③若者意識調査（資料1－3）

（委員）

前年度比で進路希望、進学割合が気になっている。

就職に進む人が減ってきていると思っている。ライフプランを考えたときにある程度安定した収入を考えると専門学校等への進学する人が増えている印象を感じた。それを良しとするか食い止めるかは別の話だが、話題になるのが市内の産業をどれくらい維持していくかと密接に関わってくる。昔は自営業の方が多く、子供が継ぐことで働くパワーになると子育ても前向きになっていたと思うが、現在は核家族化が進んできている中で就職や将来を考えた際に栗原市に残る選択肢を取る子供がどれくらいいるのか気になった。

またアンケートでは就職したい人がどのようなタイプの就職をしたのかなどのアンケートは取られていないか。

（事務局）

前回調査との比較については、本調査は令和2年度には実施しておらず比較データはない。

将来就きたい仕事については資料1-3のP.7に示している。一番多いのは公務員で21.4%、次いで医療・福祉関係が14.9%となっている。

（委員）

高校が就職を選ぶ中で、公務員希望が多いと感じている。

（議長）

高卒で就職は、自分の世代からすると可能性のあるゾーンだが、若い人を社会に接続するには熟成が必要。その熟成をどうやって地域社会でやれるか。待てない地域はそりがあわず負のスパイラルになる、大人の

仕事はどう熟成させるか。ちゃんとした大人であることも重要。アンケートは若い人が社会に求めていること。熟成そびれたいい年の人たちの共存もある。そういった人が定住・移住ゾーンと思う。そのインターバルを繋げる。

(委員)

高校3年生の娘がおり、当該アンケートが届いたため回答を依頼した。インターネットで回答したようだ。資料1-3のP.7の就きたい仕事で公務員を志望されるのは、地元で働く場があるから戻れるということで選択肢があると思う。市内で働く場があれば、戻ってきたいと思う。先日、築館高校と事業をした際、3年生を担当したが、栗原市に居たいが勉強したい場所が仙台だったり、働く場が無いため家を出ると言っていた。気持ちは栗原に向いているのが分かったので、総合計画に活かしてほしい。

(委員)

18歳の息子は市内に就職した。栗原市内にもかなり求人が来ている。就職先も先輩が多く、楽しく仕事をしている。長男には結婚アンケートが来たが年代によって考え方が違うが、長男は収入が思うように入っていないため結婚は考えられない、職場に気を使い、家庭でも気を遣うのかと思っている。三男はスターバックスがあると楽しいと言っていた。会社関係だけでなく、商業にも力を入れていただくと若い人が過ごしやすい栗原市になるのではないかと感じた。

(委員)

質問だが、資料1-3のP.3の今後の進路について、477件中、市外の高校に通っているのはどれくらいで、その割合で、どう就職したいのか。その意味合いでアンケートも変わってくる。市内にずっといるなら、就職先が市内に目を向けると思う。

また、資料1-3のP.7で18歳までの高校生に対して産業分類を示しているが、直接地元企業の名前を挙げられるのか。具体的に企業名を挙げられないと、市役所となる。栗原市には沢山企業があり、企業紹介を活発にやらないと難しい。企業紹介にも力を入れて欲しい。もう少し「〇〇業がどこ」と高校生が言えるくらい支援してほしい。

(事務局)

クロス集計をしていないため集計する。

資料 1-3 の P.7 職業分類で調査しており、第 3 次総合計画後期基本計画策定の際は丁寧に対応する。

(委員)

具体的な企業名を挙げれば、意識づけられて良いと思う。

(事務局)

ワンペーパーなどにまとめるなどして周知したい。

(委員)

高校で出前授業をして、地元企業を知るきっかけをつくることで、もう少し地元根付くような学生が出てくるのかなと感じた。

(事務局)

市企業連絡協議会でジョブフェアを夏と冬の 2 回開催しており、冬は高校 2 年生を対象に企業紹介をしている。築館高校、岩ヶ崎高校でも探究の時間で市が出前講座をしており、それもあって公務員が多いと思う。次回調査時にはかみ砕いた職種の説明を入れたいと思う。

市内の高校生は以前 3 割就職だったが、現在は 15~20%が就職、一昨年は 100 人くらいが就職希望で、そのうち半分が市内、半分が市外を希望している。就職希望が減ってきているが、就職希望者が市内を希望する傾向はまだ強い。

(議長)

継続的にバックデータを取っていくと良いと思う。

(委員)

アンケート結果は公表するのか。

(事務局)

確定後に、ホームページに掲載する。

(2) 第 3 次栗原市総合計画策定に係る事業報告について  
まちづくり若者ワークショップ (資料 2)

(委員)

参加希望の高校生がいたが、募集チラシに全 3 回参加の記載があり、

部活の都合などで1度しか参加できないという学生もいた。せっかく地域のことを積極的に考えたいという学生もいらっしやるので全日程に参加できなくても参加できる仕組みづくりを次回してもらえたらと思った。

(事務局)

当初は市のホームページ、インスタグラムで募集をかけたが、一人しか申込みがなかった。そこで、個別に高校を訪問し、参加を依頼した際、全日程でなくてもよいということは伝えている。

(委員)

やる気のある生徒もいる。次回は全日程参加しなくても大丈夫と言ってもらった方がいい。高校生は謙虚な子が多く、全日参加を促すと気を使ってしまい遠慮してしまう。積極的な子には回数を限定せずに、意見を貰ったほうが良いと感じた。

(事務局)

次回募集の際には一回でも大丈夫と分かりやすいように周知する。

また、岩ヶ崎高校の先生には、次回から参加したい方がいれば対応する旨を連絡する。

#### 4 その他

今後のスケジュールについて

(事務局)

次回審議会は3月予定。日程が決まり次第連絡する。

#### 5 閉会

(午後3時15分)